

物流基盤を活かした成長産業の拠点形成

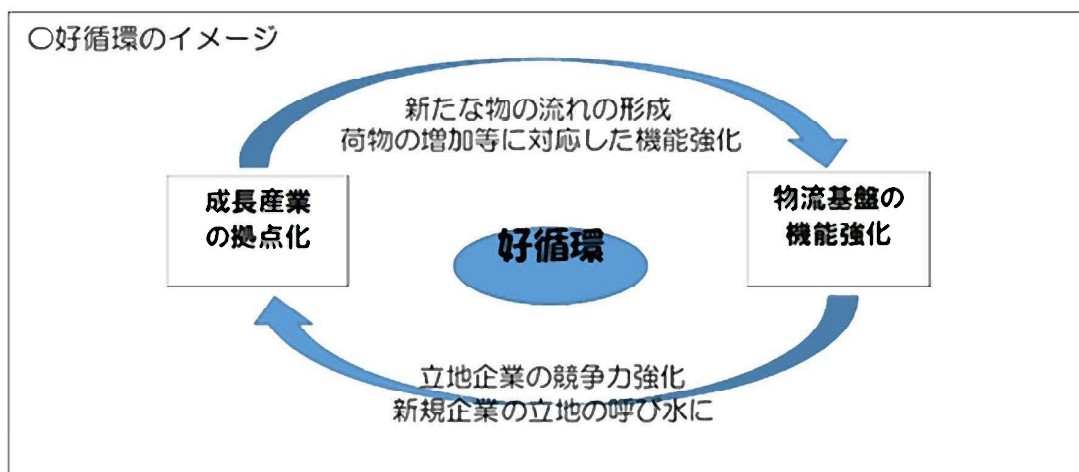
～成長産業の拠点化による新たな物流を形成～

1 背景

- 物流は企業活動に必須のものであり、物流基盤の機能強化は、製造業をはじめとする企業の競争力向上に繋がり、企業の新規立地の呼び水となる。
- 本市は充実した物流基盤を有し、地勢的にも九州と本州の結節点となるなど優位性を有している。これを活かし、物流を活性化させるためには、集貨を強化するとともに、新規企業の立地による創貨を進めていく。
- 本市は日本の産業拠点として発展した歴史から、自動車、半導体、素材・部品等を中心とした産業が集積・高度化しており、近年注目されている環境・エネルギー産業の立地も見られている。
- また、これらの産業集積・高度化に加えて、近年では北九州空港からの半導体製造装置や自動車部品関連の輸出実績の蓄積、民間団体と連携した航空関連産業の誘致や風力発電関連産業の総合拠点化への動きなど、新たな成長産業の集積に向けた機運が醸成されてきている。
- 自動車業界は、CASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化）、MaaS（サービスとしてのモビリティ）など新たな潮流への対応を求められる転換期にある。この転換期に対応していくことで、既存の関連産業に加え、次世代自動車関連産業の立地推進が図られると考えられる。

2 取組の方向性

- 本市の物流基盤やその機能強化を背景に、成長産業（次世代自動車関連産業、半導体関連産業、風力発電関連産業、航空関連産業）の立地を推進することにより創貨を促進し、新たな物流を形成する。
- 成長産業の拠点化による新たな物の流れを創出し、それに対応した物流機能の強化に繋げることで、好循環を形成する。



3 今後の取組み(案)

- 成長産業の誘致
 - 次世代自動車関連産業の立地を推進
 - 半導体関連産業の立地を推進
 - 風力発電関連産業の総合拠点化を推進
 - 航空関連産業の立地を推進

- 物流基盤の機能強化
 - 北九州港・北九州空港の機能強化（再掲）
 - 物流関連道路の機能強化
 - 物流施設の高度利用・機能強化（再掲）